

**2024年3月期 第2四半期
決算説明会**

株式会社RYODEN

2023年11月13日
東証プライム
証券コード 8084

1. RYODENについて
2. 2024年3月期 第2四半期決算サマリー
3. セグメント別の実績・見通し
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて
5. 株主還元
6. 新事業“ワクワク”のご紹介
7. Appendix



1. RYODENについて

設立：**1947年**

事業所数：**国内28拠点、海外21拠点**

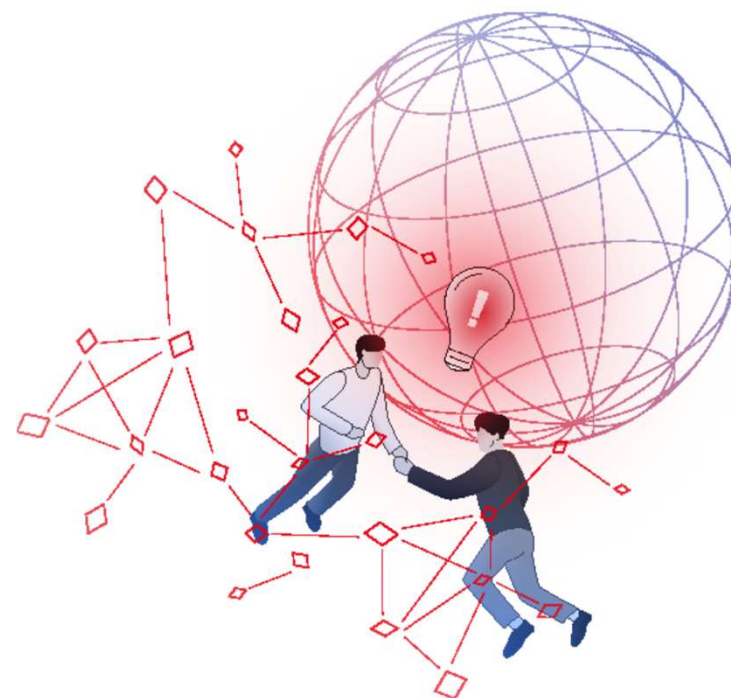
従業員数：**1,242名**

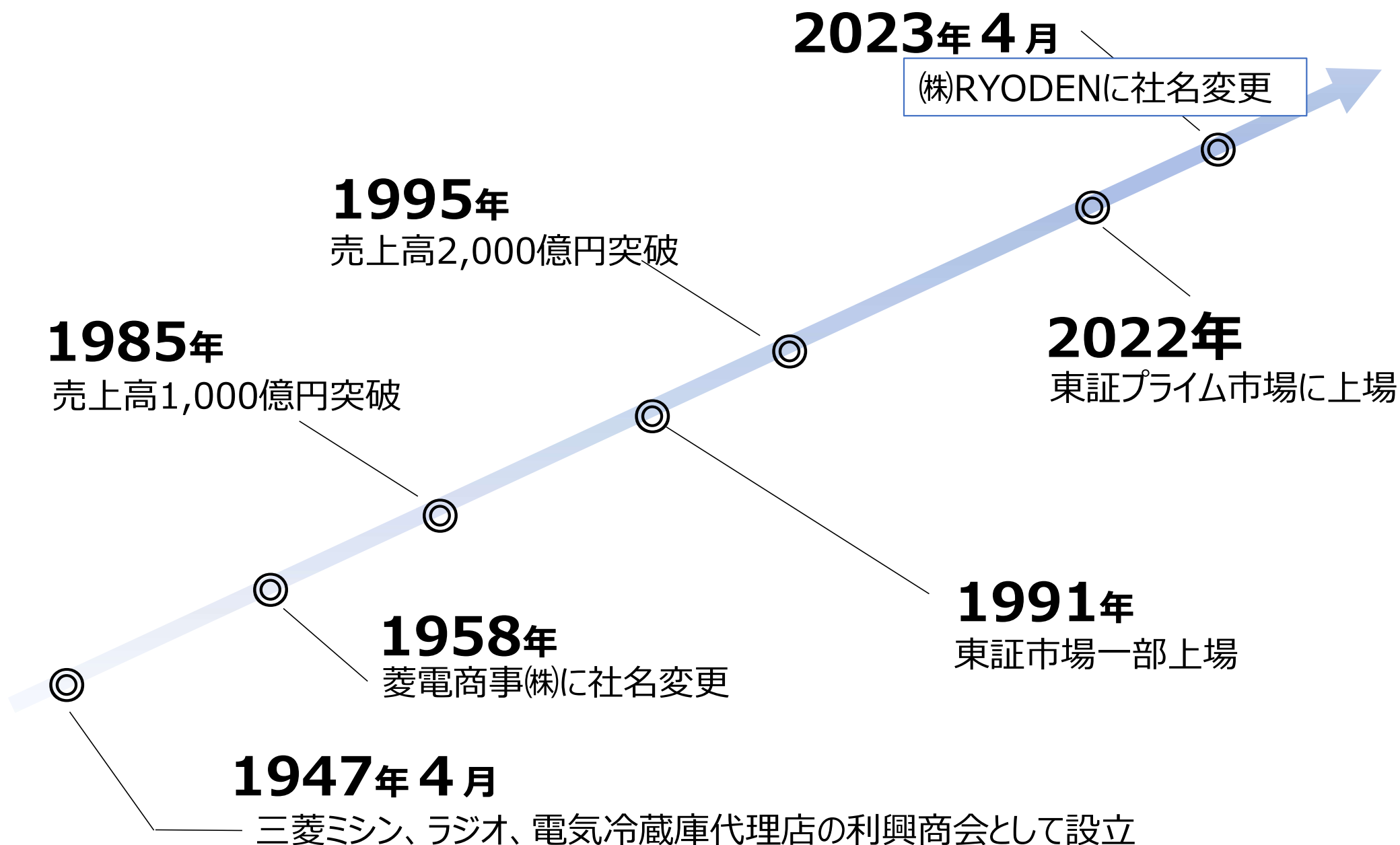
売上高：**2,603億円**

純利益：**53億円**

総資産：**1,510億円**

自己資本比率：**52.8%**







FAシステム



三菱電機(株)協働ロボット (MELFA ASSISTA)

三菱電機(株)シーケンサ



三菱電機(株)製レーザー加工機

Order Made Elevator
NEXCUBE



三菱電機(株)展望用エレベーター

ファシリアDD



三菱電機(株)設備用パッケージエアコン



クボタ空調(株)製エリア空調機室内機

冷熱ビルシステム

X-Tech (クロステック)



次世代型植物工場「BlockFARM」



医療情報システム (イメージ)



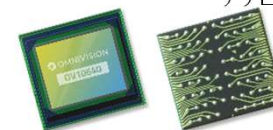
ビデオカメラソリューション (FlaRevo)



三菱電機(株)SiCパワーモジュール



日清紡マイクロデバイス(株)製アナログ半導体



OMNIVISION製CMOSセンサー

エレクトロニクス

462億円
(17.8%)

57億円
(2.2%)

272億円
(10.5%)

売上高
2,603
億円

1,811億円
(69.5%)



2. 2024年3月期 第2四半期決算サマリー

2024年度3月期第2四半期決算サマリー



(百万円)	2023年3月期 2Q実績	2024年3月期 2Q実績	増減	2024年3月期 期初見通し	2024年3月期 修正見通し
売上高	127,033	129,843	+2,810	263,000	263,000
営業利益	4,765	4,236	△528	7,000	7,300
経常利益	4,714	4,313	△400	7,000	7,300
当期純利益	3,170	2,900	△269	4,800	5,000
			配当	80円	92円

(中間46円
期末46円)

- 2Qは前年同期比増収減益だが**期初予想を上回る実績**
- 2024年3月期はFAシステムの半導体製造装置向けの需要の落ち込みとエレクトロニクスの産業機器市場の需要に陰りが見え始めるものの、引き続き収益力の強化に取り組み**各段階利益の見通しを上方修正**
- 年間配当金の予想を**92円に修正** (中間・期末いずれも6円増配)

財務の状況



(百万円)	2023年3月期	2024年3月期 2Q	増減
総資産	151,049	165,742	+14,692
負債	71,150	82,488	+11,337
純資産	79,898	83,253	+3,354
自己資本比率	52.8%	50.1%	△2.7pt

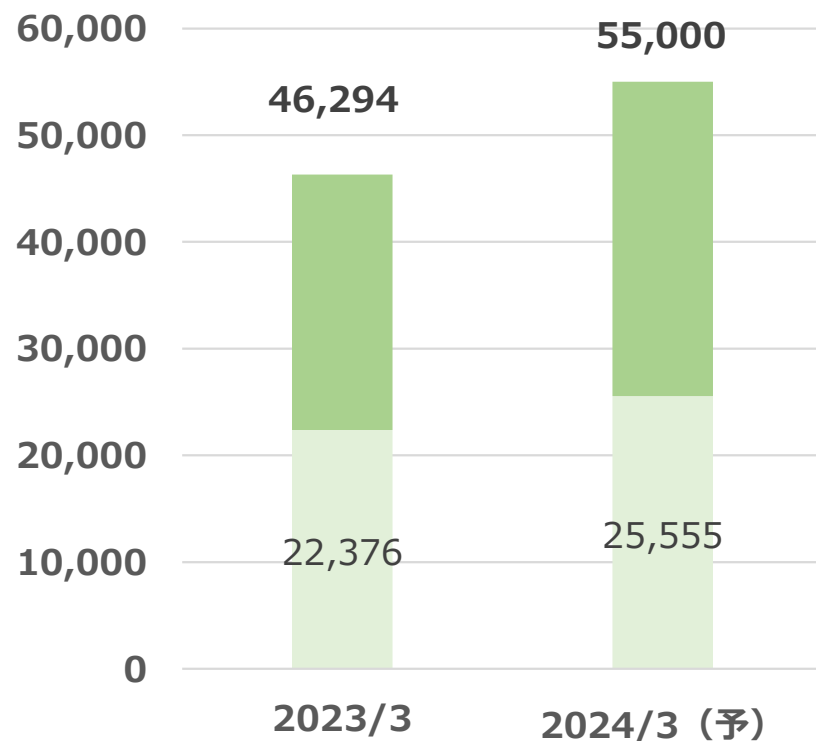
(百万円)	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	増減
営業活動CF	△3,699	7,863	+11,562
投資活動CF	△1,331	224	+1,555
財務活動CF	742	470	△272
現金及び現金同等物	8,451	20,012	+11,561



3. セグメント別の実績・見通し

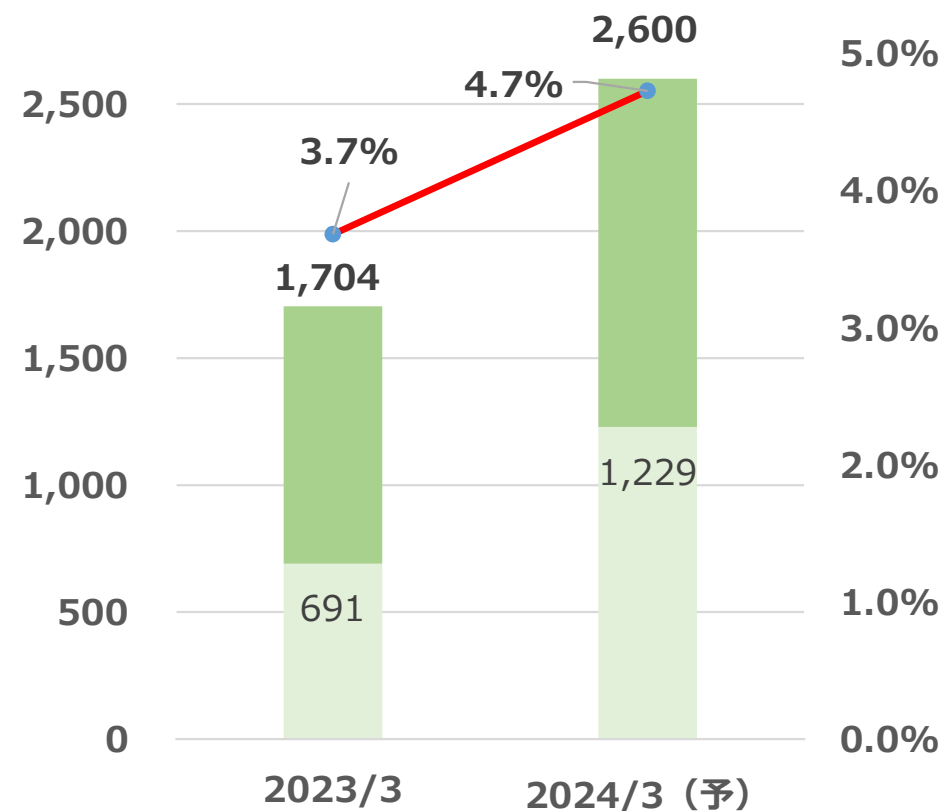
2Q 4Q

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

営業利益率 (%)

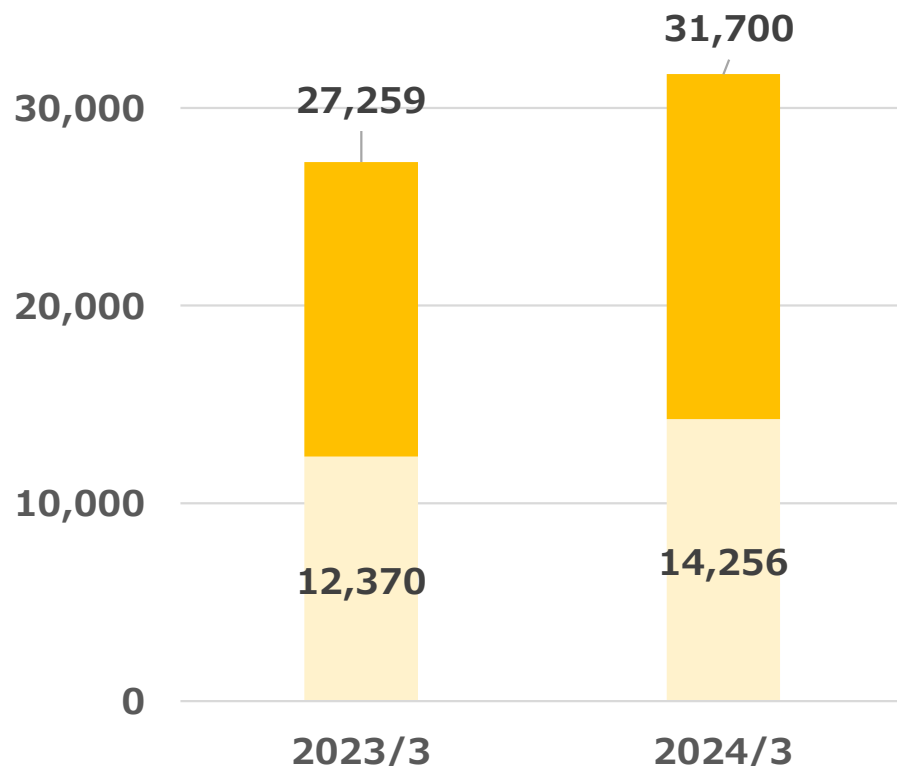


主なポイント

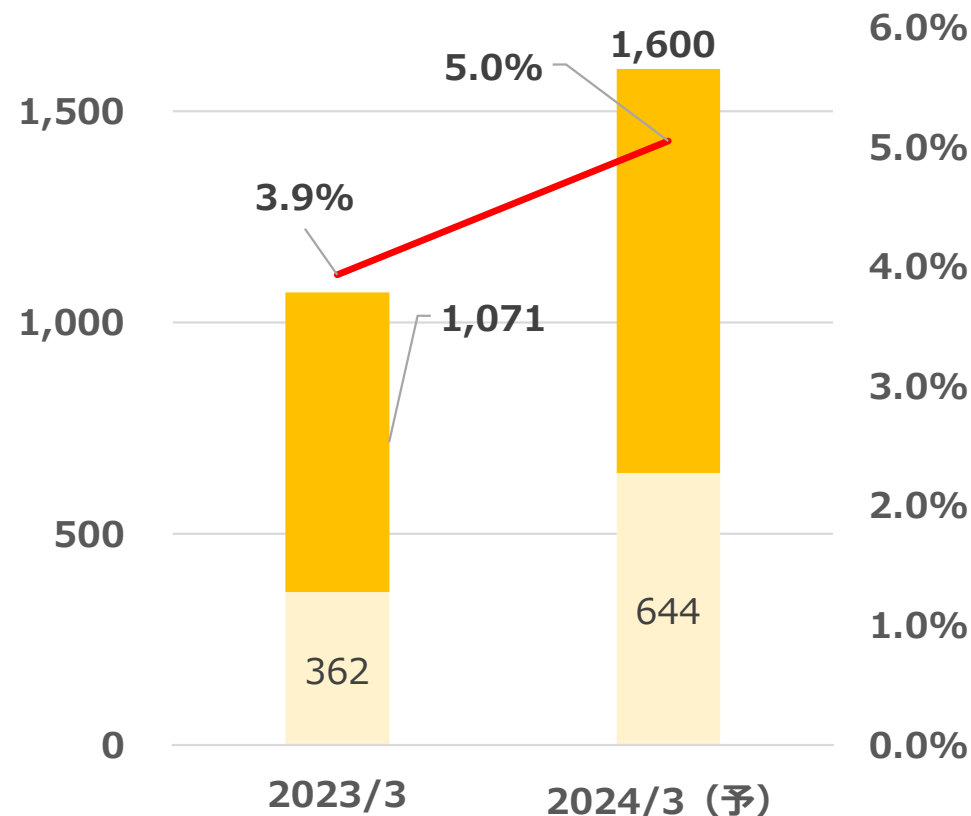
- ◆ 上期：半導体製造装置向けは低調に推移したものの、サプライチェーンの回復、自動車関連のEV化に伴う新規設備投資需要の取り込みなどにより堅調に推移
- ◆ 下期：半導体製造装置向けの需要回復が見通せないものの、受注残の水準は引き続き高く、サプライチェーンの回復もあり堅調に推移する見通し

2Q 4Q

売上高 (百万円)



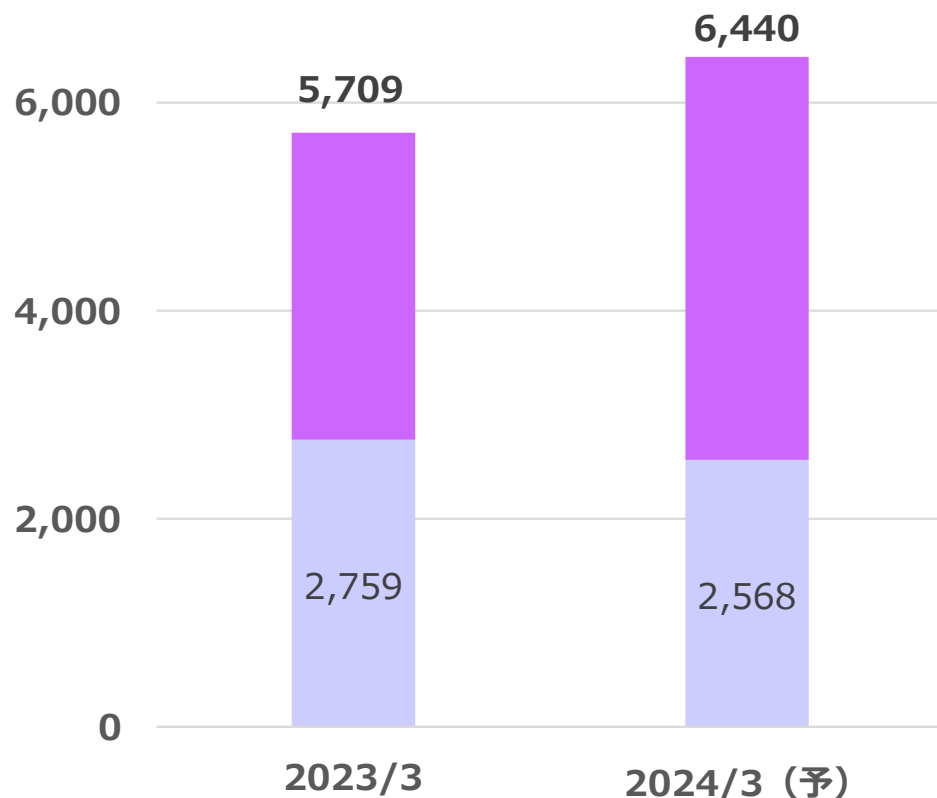
営業利益 (百万円)



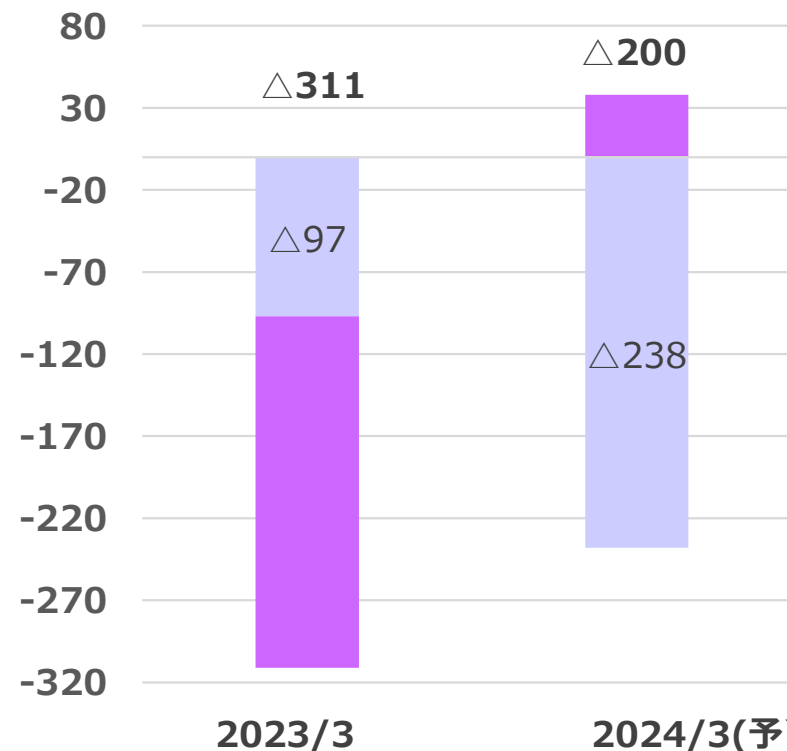
主なポイント

- ◆ 上期：冷熱システムは、設備投資や民間消費の回復により業務用エアコンや低温設備機器の販売が好調に推移。ビルシステムも昇降機・電源設備の販売等が好調に推移
- ◆ 下期：空調市場はオフィス向けなどで投資が堅調に推移するとともに、コールドチェーン（低温物流）の再編による需要増が期待。建設市場は資材高騰・工期遅延問題が引続き懸念されるが一定の投資は継続。

売上高 (百万円)



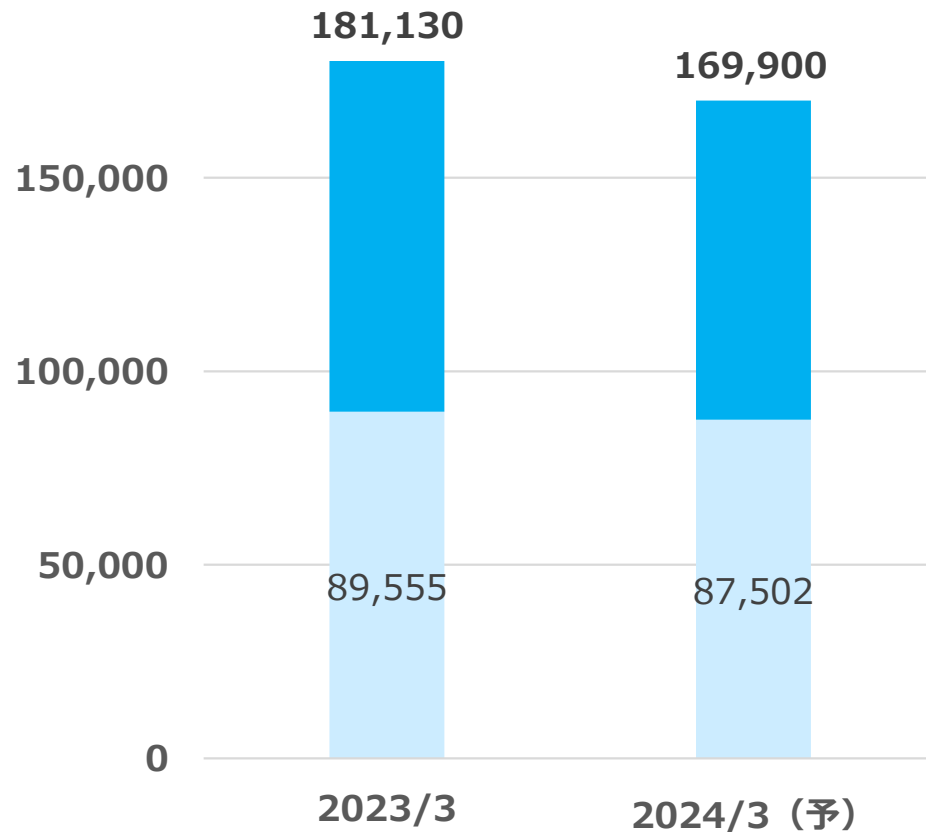
営業損失 (百万円)



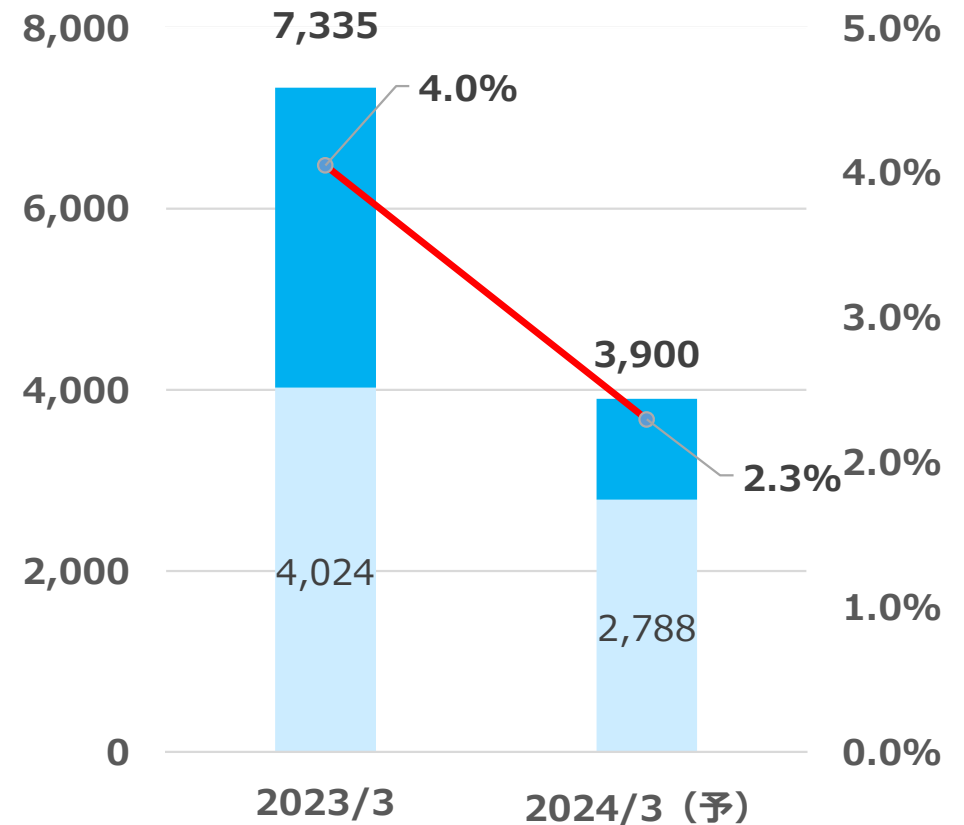
主なポイント

- ◆ 上期：ヘルスケアは医療関連の設備投資の減少により低調に推移。ICTはビデオマネジメントシステム「FlaRevo」等の販売は低調に推移したものの、IT関連機器販売が堅調に推移。スマートアグリは、電気代高騰の影響を受け引き続き低調に推移するものの、植物工場野菜の研究開発・生産・販売・ブランディングを提供できる体制を整備。
- ◆ 下期：ヘルスケアは、想定よりもDXに向けた設備投資需要が弱含み。ICTは、製造業を中心とした情報化、品質向上、セキュリティ強化などICTを活用した投資の拡大が見込まれる。スマートアグリは、顧客の投資抑制が継続。投資の回復は2025年以降を見込む。¹²

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円) 営業利益率 (%)



主なポイント

- ◆ 上期：国内はエンターテインメント機器向けSoCやメモリ等の販売が好調に推移、産業機器市場もパワーデバイス等の販売が堅調に推移。海外は産業機器向けアナログ半導体、パワー半導体、メモリ販売が好調に推移
- ◆ 下期：車載市場は堅調な推移を見込むものの、産業機器市場は需要に陰りが見え始め不透明な状況

2024年3月期 セグメント別実績・見通しサマリー



売上高 (百万円)	2024年3月期 2Q実績	2024年3月期 下期予想	2024年3月期 通期予想
FAシステム	25,555	29,445	55,000
冷熱ビルシステム	14,256	17,444	31,700
X-Tech	2,568	3,872	6,440
エレクトロニクス	87,502	82,398	169,900
全社合計 ※1	129,843	133,157	263,000

営業利益 (百万円)	2024年3月期 2Q実績	2024年3月期 下期予想	2024年3月期 通期予想
FAシステム	1,229	1,371	2,600
冷熱ビルシステム	644	956	1,600
X-Tech	△238	38	△ 200
エレクトロニクス	2,788	1,112	3,900
全社合計 ※1	4,236	3,064	7,300

※1 全社費用含む



4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

Purpose : 当社が進むべき道しるべ

**人とテクノロジーをつなぐ力で
“ワクワク”をカタチにする**

ビジョン : 2050年の目指す姿

**100年企業として「環境」「安心」「安全」で
サステナブルな社会の実現に貢献する**

あるべき姿 : 2024年のRYODEN

**代理店、商社の枠を超えた事業創出会社として
新たな価値を生み出しつづける**



戦略テーマ

デジタルトランスフォーメーションの推進

- 成長事業のビジネスモデルの確立と次世代新規ビジネスの創出
- 基幹中核事業における生産性向上
- 事業推進基盤の強化

注力推進分野

経営目標

環境・安心・安全

営業利益

100億円以上

新事業売上

220億円以上

新事業総利益率

18.0%

ROE

8.0%

中期経営計画の進捗



経営指標	2023年度見通し	2024年度目標
営業利益	7,300百万円	10,000百万円
営業利益率	2.8%	3.8%
新事業売上高	12,300百万円	22,000百万円
新事業売上 総利益率	14.5%	18.0%
ROE	6.1%	8.0%

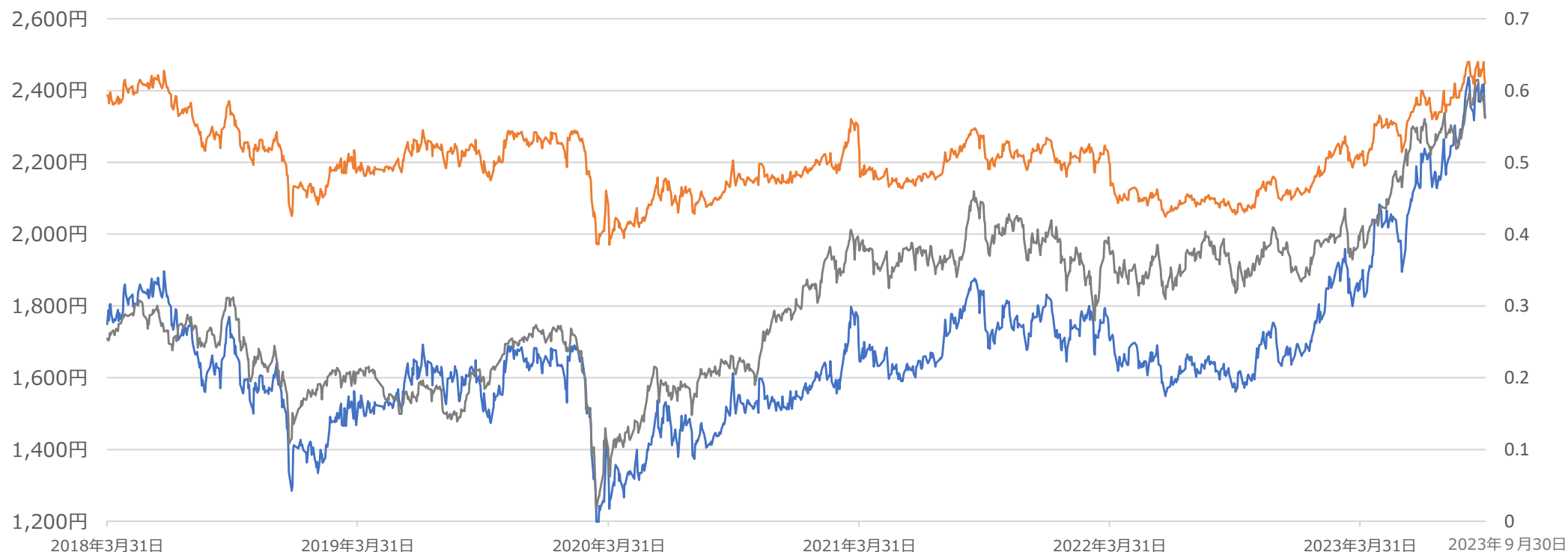
<課題認識>

- ✓ 2023年度はエレクトロニクスの調整局面入りなどから減益を見込む。
- ✓ 新事業の芽は着実に出てきているものの、収益化が遅れている。

市場評価と資本収益性の現状分析



【市場評価】株価・PBR推移（過去5年）



<課題認識>

— 株価 — TOPIX — PBR

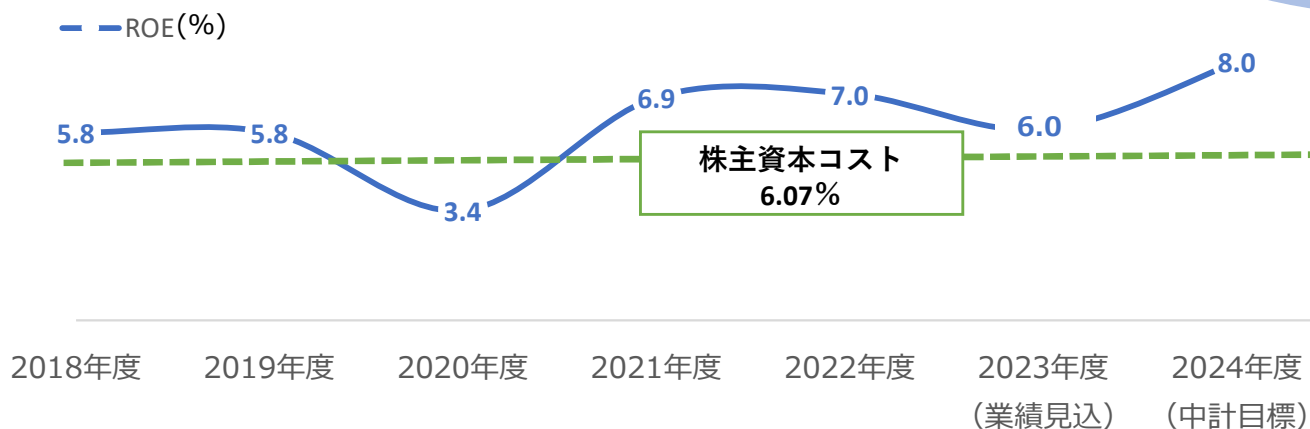
- ✓ PBRは一倍を下回る
- ✓ 当社の将来性・成長性が投資家に十分に伝わっていない

市場評価と資本収益性の現状分析



【目標ROEと資本コスト】

6.07%	=	0.774	+	0.882	×	6.00%
株主資本 コスト		リスク フリーレート		β		市場リスク プレミアム



<課題認識>

- ✓ ROEは足元では目標8%には届いていない。

収益力の強化-その1

中期経営計画で定める成長戦略を着実に実行

FAシステム

製造業DXを切り口に「加工・組立・搬送・検査」を一気通貫で提案するトータルソリューションを提供。また統合監視制御システム（Remces）の販売を拡大

冷熱ビルシステム

クリーンルーム・環境試験設備等の産業冷熱ビジネスの拡大と暑熱対策などにより事業ドメインを拡大

X-Tech

- ✓ 次世代農業への参入を検討する企業向けにコンサルティング、エンジニアリング、データサービスを提供し、当社独自のリカーリングビジネスを確立（スマートアグリ）
- ✓ 医療機関のDX化・管理負荷削減に貢献する中小医療機関向けトータルパックITや画像統合配信システムの販売を拡大（ヘルスケア）

エレクトロニクス

Omnivision, Allegroなどの新規ビジネスパートナーとの関係を強化。パワー・アナログ・センサなどの販売を拡大し、特に需要増が期待されるEV市場に注力

中長期的な企業価値向上のための施策



経営目標値 | セグメント

単位：百万円

FAシステム	2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標
売上高	46,294	55,000	60,130
営業利益	1,704	2,600	2,760

冷熱ビルシステム	2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標
売上高	27,259	31,700	37,230
営業利益	1,071	1,600	2,380

X-Tech	2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標
売上高	5,709	6,440	11,900
営業利益	△311	△200	1,140

エレクトロニクス	2022年度実績	2023年度計画	2024年度目標
売上高	181,130	169,900	172,340
営業利益	7,335	3,900	4,870

中長期的な企業価値向上のための施策



収益力の強化-その2

● 高利益率の新規事業の売上規模拡大

X-Tech

売上11,900百万円

+

基幹中核事業

FAシステム

冷熱ビルシステム

エレクトロニクス

での新規ビジネス

売上10,100百万円

- ・ システムソリューションビジネスを点から面へ拡大
- ・ EV市場向け新商材の拡販
- ・ 暑熱対策空調機の提供拡大…etc.

2024年度新規事業売上高**22,000百万円**の達成を目指す

- 事業創出のためのこれまでの投資（2019年 新事業推進室の設置、2022年 閉鎖型植物工場：Block FARMの建設など）に加え、**2023年度下期より新規事業開発・投資枠を新たに設定（年間4億円）**

データリカーリングビジネスの基盤となるIoTプラットフォームの構築、画像認識技術のソリューション強化などに投資。

中長期的な企業価値向上のための施策



収益力の強化-その3

事業創出のための技術を統括する「戦略技術センター」を設置（2023年4月）。開発資源の集中による技術の横展開・新技術の発掘と効率化に取り組む

戦略技術センター

エレクトロニクス FA 冷熱ビル 新事業

先行開発

IoTプラットフォーム技術



事業応用

デバイス・機器連携制御技術(FAE)

基盤

AI、Cloud、通信 技術

調査研究

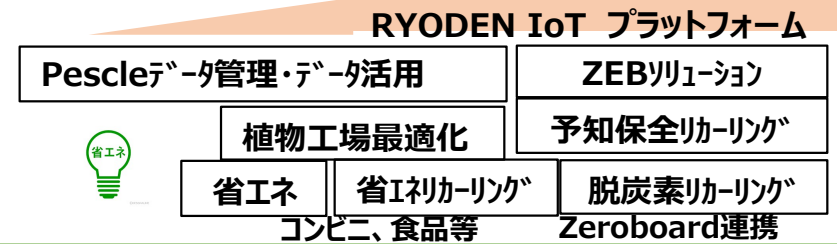
新技術

事業出口

短期
2024年

中期
2026年

長期
2028年



データ利活用新事業

機器予防保全ソリューション(振動センサ応用)

ADAS等向けデバイス新商材ソリューション

搬送型協働ロボット

IRIA空調ソリューション

画像検査AI

製造業、食品等

基幹事業貢献

植物工場
省人化AI



無線活用CO2監視、防災

FlaRevo 予知保全AI

Pescle* AI

生成AI支援FAE

製紙、食品等

基盤応用

ICT新技術応用

ChatGPT

生成AI応用(FAE飛躍的効率化等)



新技術応用

株主還元強化

株主還元方針の見直し

配当性向40～60%を目安に還元することを還元方針に追加

※中長期的な安定配当は維持・継続

IR活動強化

- ◆ 取締役社長、IR担当役員による個人投資家向け会社説明会、機関投資家向け決算説明会の継続
- ◆ 株主及び投資家との間の建設的な対話への取り組み（IRミーティング等）を継続。積極的な対話に取り組むとともに、対話で出された意見等を適宜取締役会に報告、**経営戦略のレビュー等に活用**
- ◆ IR専任部署の設置（2023年8月）。
- ◆ **IR機能を強化し、積極的な活動に取り組む**



100年企業として「環境」「安心」「安全」で サステナブルな社会の実現に貢献

PBR 1 倍超の実現

中計達成

- 収益力の強化
- 株主還元の強化
- IR活動の強化

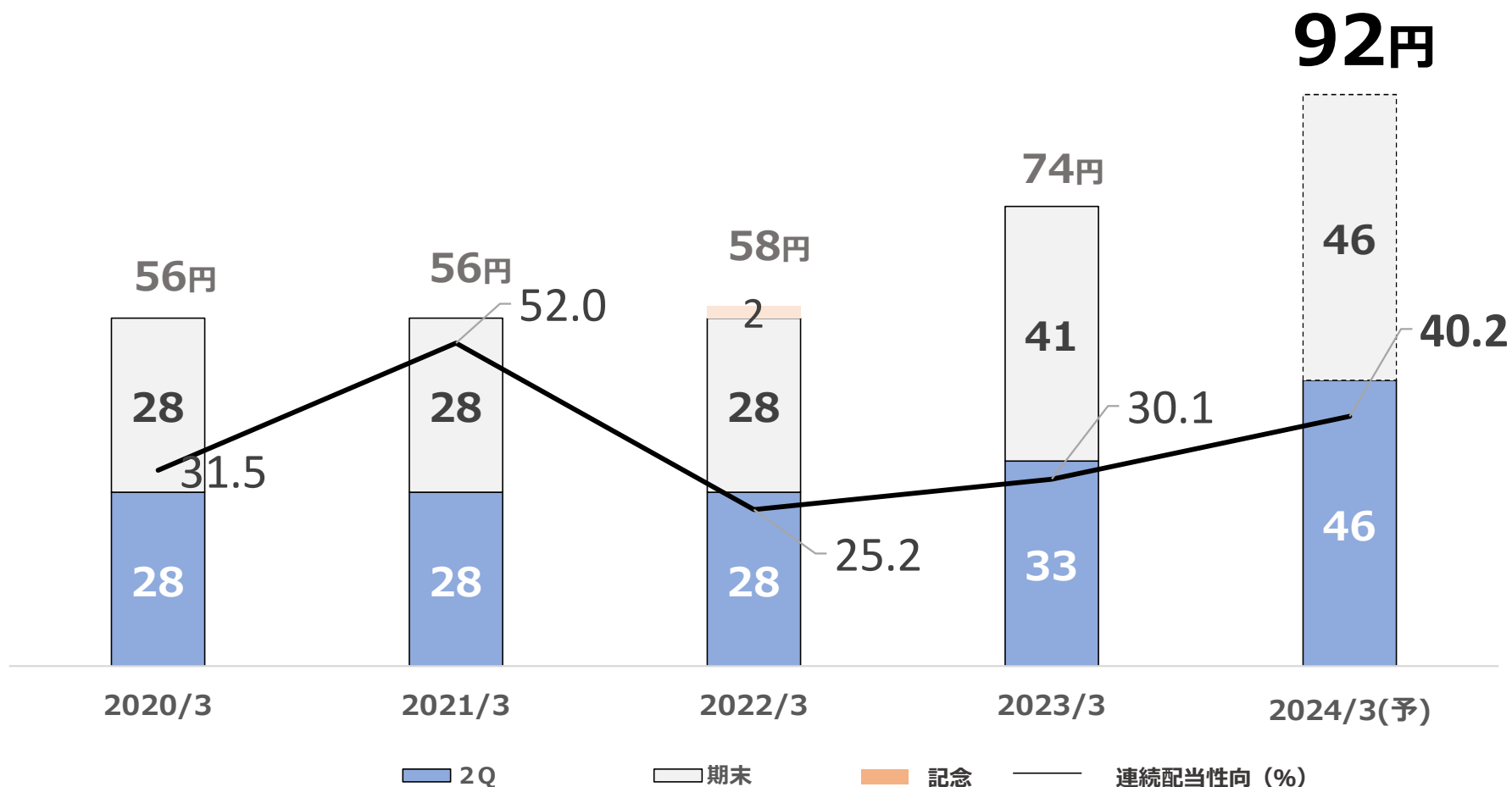


5. 株主還元

配当金・配当性向の推移



- ◆ これまで : 短期的な業績に連動せず中長期的な安定配当を維持・継続
- ◆ これから : **配当性向40~60%を目安に還元**
※中長期的な安定配当は維持・継続





6. 新事業“ワクワク”のご紹介

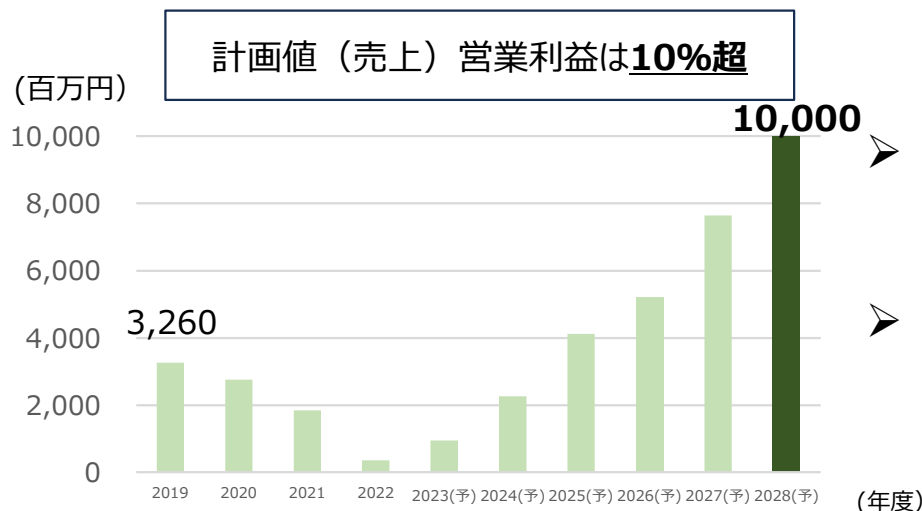
ワクワクその1 スマートアグリ事業



- 多品種・変量生産とブランディングにより高付加価値化を実現
- 販売・運営ノウハウの蓄積により新規参入企業向けサービスを構築



ハウス食品グループ本社(株)と共同開発した新商品



- 22~23年度は新規受注をストップし自社工場Block FARMの立ち上げと販売流通会社のM&Aにより事業を再編成
- 今後はデータドリブンで収益性の高い農業モデルの構築により、新たなサービスモデルを展開し食、農の持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



- 製造業DXを実現するトータルソリューションを提供



ペストコントロール*に取り組む企業のDXを支援
サブスクリプション型AIサービス

さらなる事業ドメインの 拡大へ

2028年度には売上高**10億円**・営業利益**20%超**を実現、2025年度海外進出予定

* 人に有害な生物の活動を、人の生活を害さないレベルまで制御する技術を指す。

出所：公益社団法人日本ペストコントロール協会（<https://www.pestcontrol.or.jp/>）



FlaRevoをはじめとする「見える化ソリューション」を提案し、
お客さまに気づきを提供

害虫・害獣駆除市場
2023年度 ▶▶ 1兆5,000億円
2028年度 ▶▶ 2兆円規模へ成長
(当社調べ)

2028年度には売上高**15億円**・営業利益**20%超**を実現、さらなる収益化

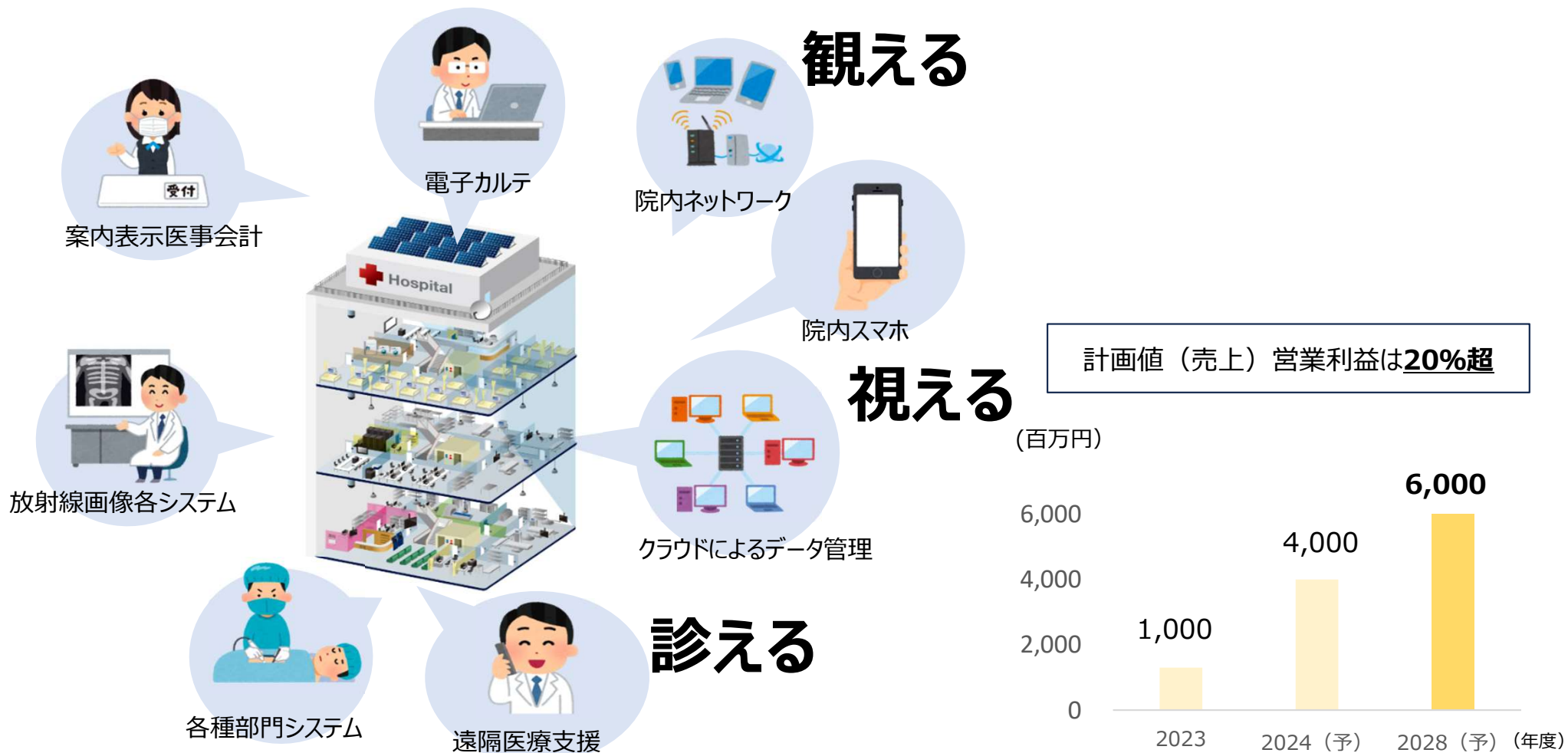


オープンプロトコルで収集したデータの可視化・分析・制御
により生産効率・エネルギー効率・環境の最適化を実現
する統合監視制御システム

2028年度には売上高**30億円***営業利益**10%超**を実現、さらなる収益化

*レムセスの提供によって販売が拡大する関連製品を含む

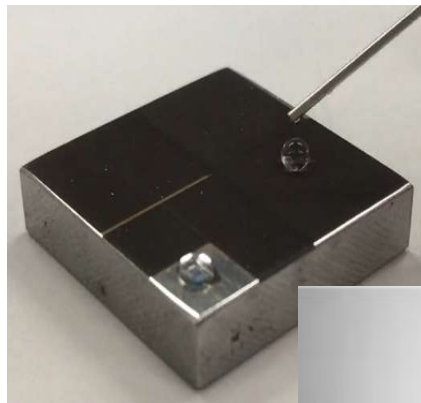
- 病院内のITシステムを一つのパッケージとして10年間ご提供
(トータルパックIT)



クラウドを活用し病院のDXを支援、管理負担の削減に貢献

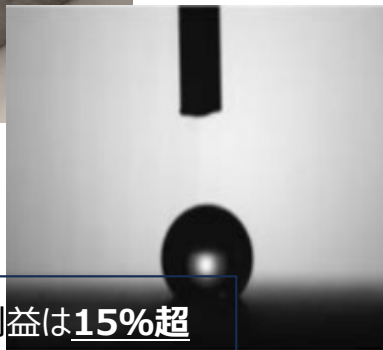


- 微細加工レーザー技術でこれまで化学で解決していたものを物理で解決

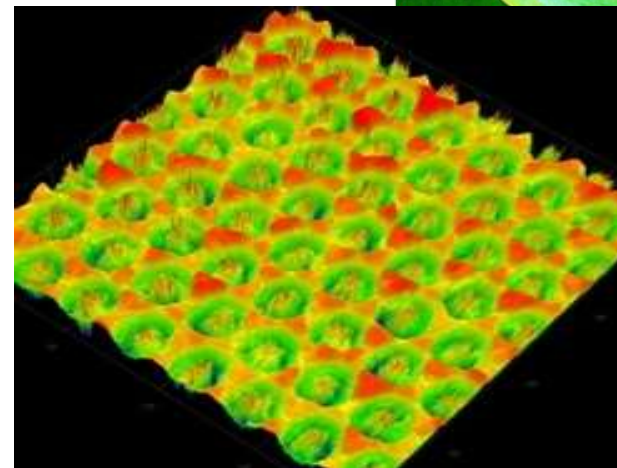
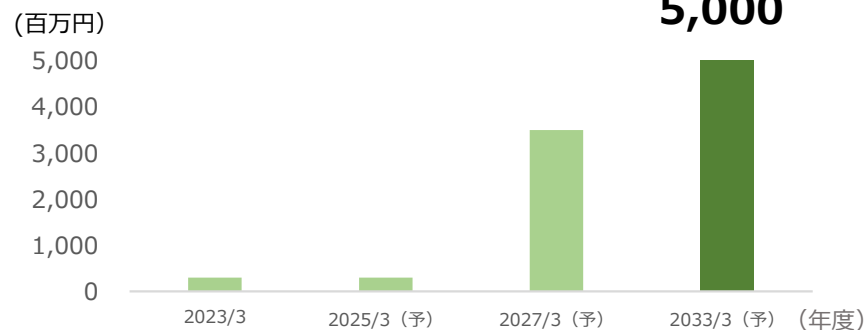


撥液

微細周期構造(凹凸形状)を生成することで水の接触角をコントロール。撥水機能をもつ表面を実現



計画値(売上) 営業利益は15%超



※加工表面の立体画像

「商社」の枠を超え、「事業創出会社」を目指します

「規模」ではなく「利益」を追求します

「差別化」ではなく「異質化」を目指します

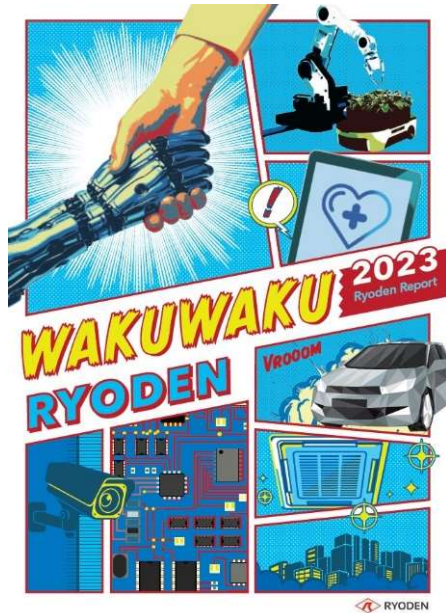
環境・安心・安全でサステナブルな社会の実現、そしてそれを支えるグリーン発展を持続する社会の実現に貢献する企業として、すべてのステークホルダーと価値を共有し、企業としての責任を果たしてまいります。

■ 統合報告「Ryoden Report 2023」を発刊（23年10月）

本年度はパーパスに掲げている「人とテクノロジーをつなぐ力で“ワクワク”をカタチにする」をテーマに、「事業創出会社」へ向けて変革の最中にある当社の“今”を感じていただくため、取締役社長をはじめ、独立社外取締役や各事業部長、担当者等のメッセージをより一層充実させました。

また、第3回「日経統合報告書アワード」にもエントリーしています。

表紙



トップメッセージ（P5-10）



独立社外取締役メッセージ（P13-18）



※英語版は11月末発刊予定

RYODENグループは

100年企業として

環境・安心・安全で

サステナブルな社会の実現に貢献します※

※中期経営企画「ICHIGAN2024」で掲げたビジョン：2050年の当社の目指す姿です。



7. Appendix

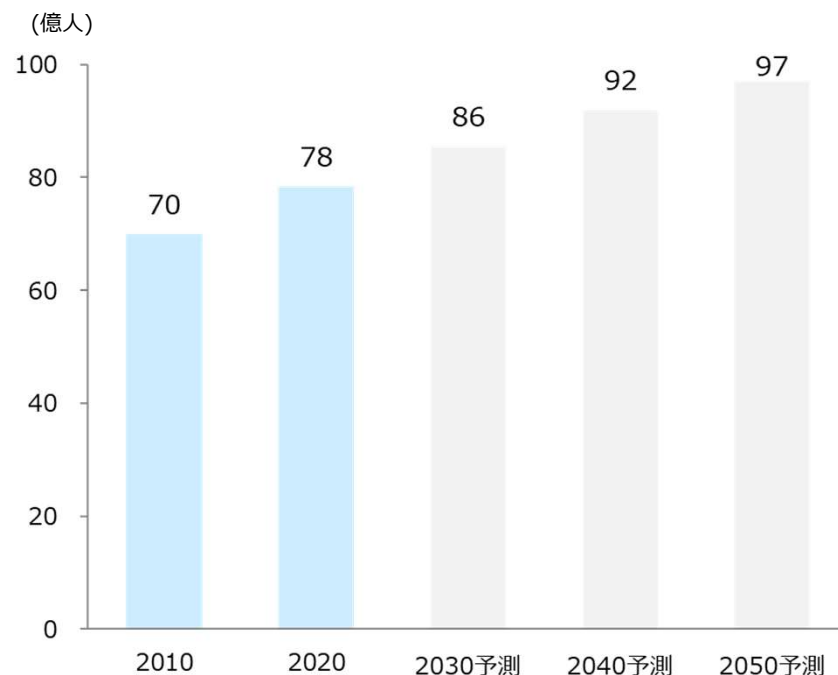
ご参考：世界の食料需要の増加推移



世界の人口と1人当たりの消費カロリーはともに増加傾向にあり、今後も世界の食料需要は増えていくと予想される

世界の人口推移

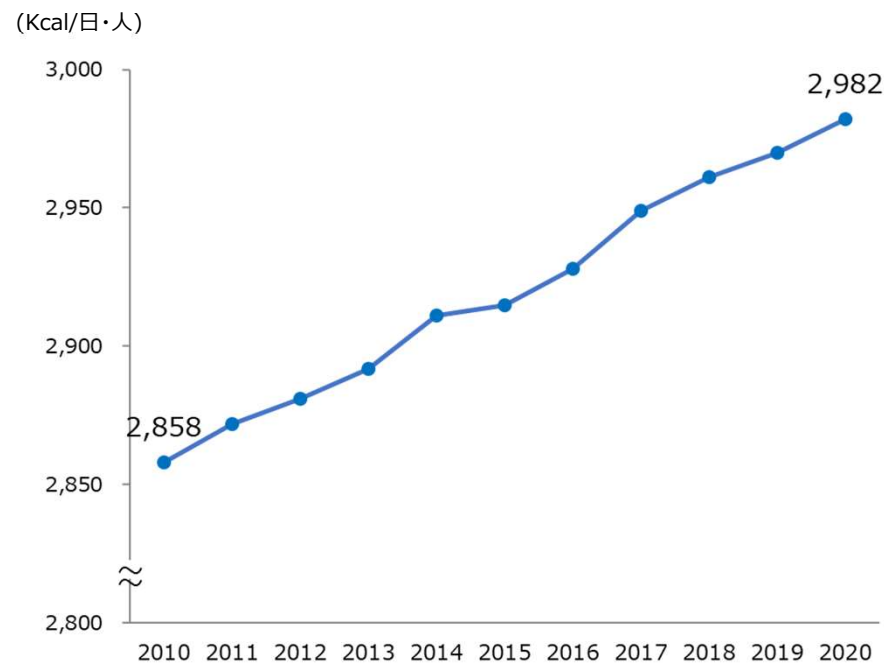
- 世界の人口は緩やかに増加傾向にあり、2050年段階で約100億人になると予測されている



※本資料はグローピング株式会社が作成した資料です。

世界の1人当たり消費カロリー/日の推移

- 1人当たりの消費カロリー/日は世界的に増加傾向にある



出所：左図はUN "[World Population Prospects](#)"より作成 / 右図はFAO "[Food Balances \(2010-\)](#)"より引用

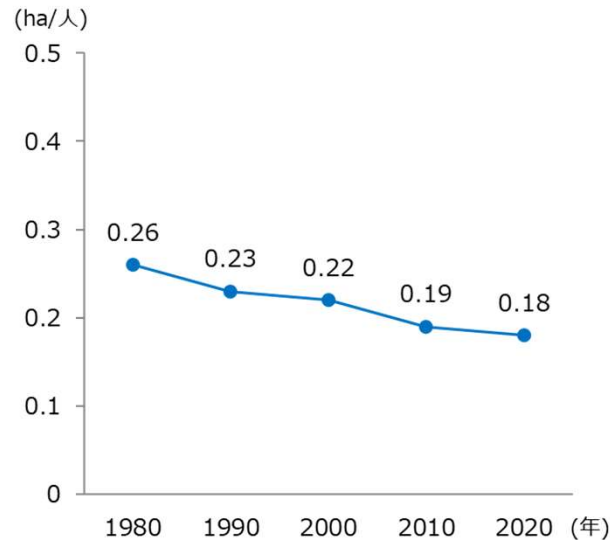


ご参考：世界の露地栽培農業の現状

- 1人当たり耕作面積は減少し、単収は上がっているものの単収増加率は減少傾向にあり、異常気象発生件数は増加している。
- 露地栽培での食料供給における不安定さが増し、生産性の限界が見えつつある。

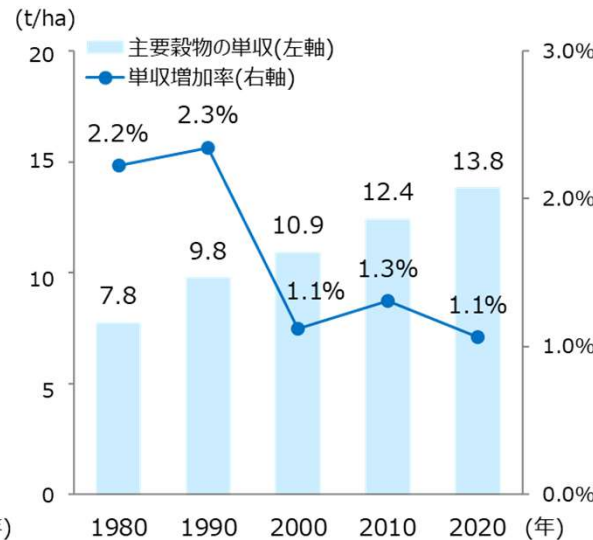
世界の1人当たり耕作面積の推移

- 1人当たり耕作面積は減少傾向にある



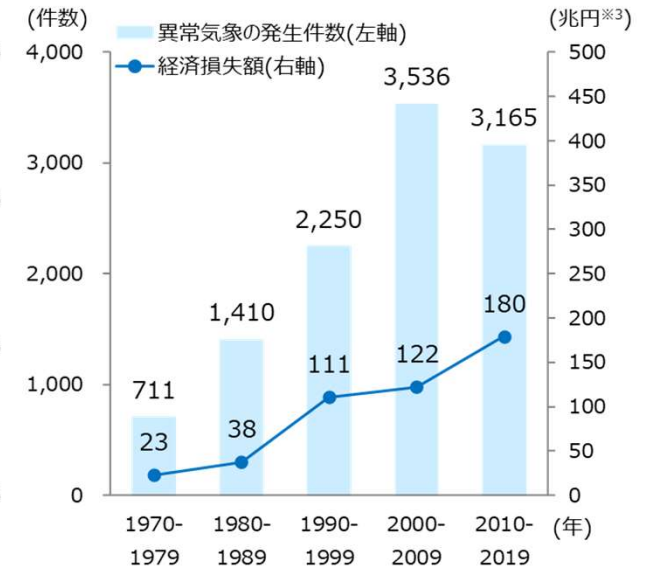
世界の主要穀物単収と単収増加率※1の推移

- 単収は増加し生産性は向上しているものの、単収増加率は減少傾向にある



世界の異常気象の発生件数と経済損失額※2

- 異常気象の発生件数と異常気象に伴う経済損失額は増加傾向にある



※1：主要穀物(米/小麦/トウモロコシ)の単収の過去10年のCAGRを単収増加率として算出 / ※2：世界の干ばつ、気温異常、洪水、地滑り、嵐、山火事の発生件数と発生に伴う経済損失額 / ※3：1ドル130円換算

出所：左図はTHE WORLD BANK “Arable land (hectares per person)” より引用 / 中央図はOur World in Data “Crop yields, World, 1961 to 2020” より世界の主要穀物（米・小麦・トウモロコシ）の単収データを抽出し作成 / 右図はWMO “WMO ATLAS OF MORTALITY AND ECONOMIC LOSSES FROM WEATHER, CLIMATE AND WATER EXTREMES (1970-2019)” より作成

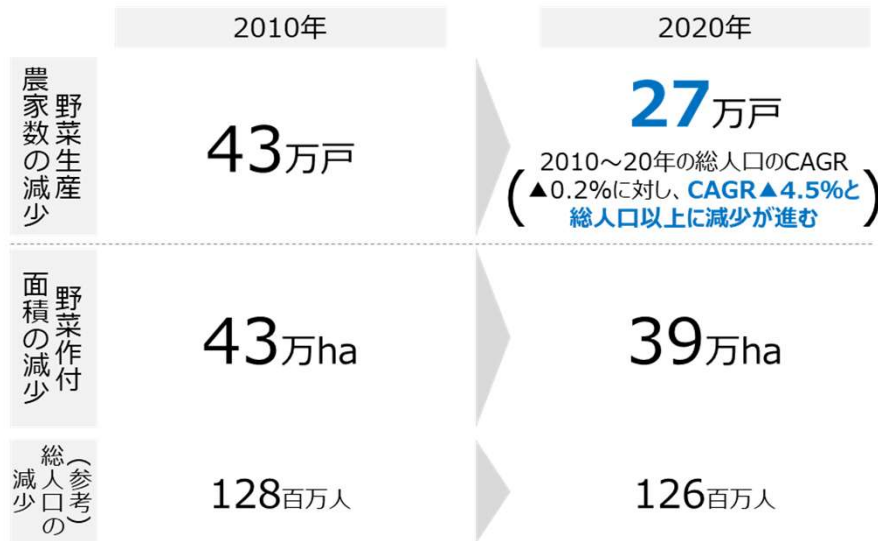


ご参考：日本の野菜農業の現状

- 日本の野菜農家数は減少傾向でそれに伴い作付面積も減っている。
- さらに高齢化が深刻化している一方、新規就農者数は増えておらず、今後日本での野菜の生産量は減少見込み

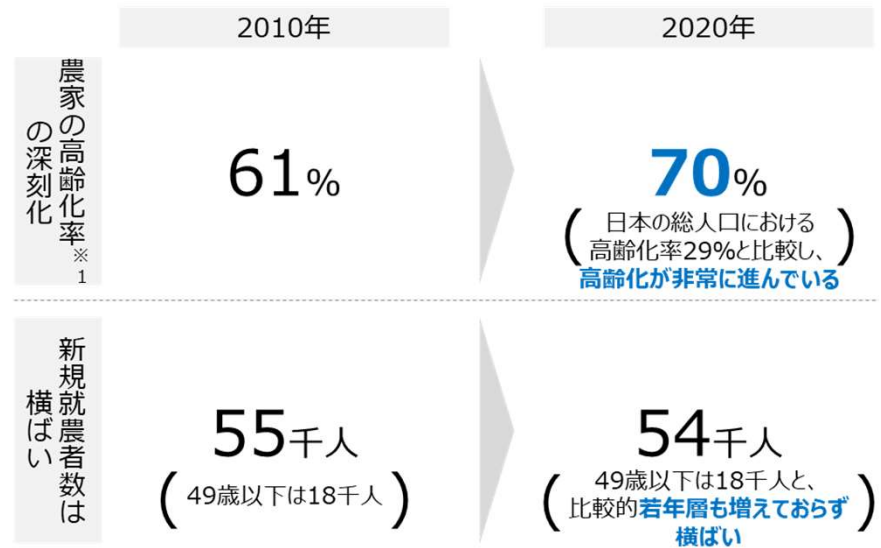
日本の野菜の供給力の減少

- 野菜の生産農家数・作付面積は減少傾向にあり、野菜の供給力は落ちている



日本の農家の高齢化と担い手不足

- 農家の高齢化は深刻化の一方、新規就農者は増えておらず、今後さらに野菜の供給力が落ちることが懸念される



国内外で“持続可能な食料生産システム”の必要性が高まっていると推察

※1：基幹的農業従事者（15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者）の内、65歳上の割合を算出した

出所：総人口は総務省“人口推計(令和3年10月1日現在)結果の要約”より引用 / 野菜の生産農家数・作付面積、農家の高齢化は農林水産省“2010年世界農林業センサス”“2020年農林業センサス”より引用 / 新規就農者数は農林水産省“新規就農者調査”より引用



ご参考：植物工場への期待

- 世界的に必要性が高まる食料生産システムの一つとして、植物工場は期待されている。

新しい食料生産システム/新しい食料

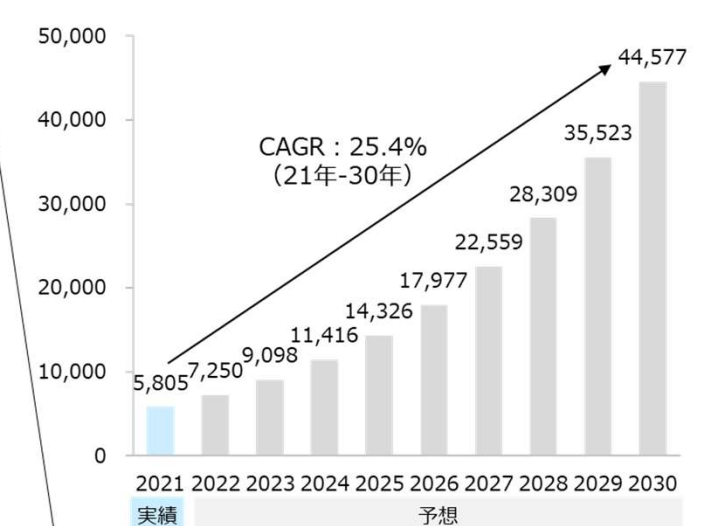
- 新たな技術により、従来とは異なる食料生産システムが増えている

	概要	期待されているポイント	グローバル市場規模予測※1
生産方法の代替	植物工場 野菜	閉鎖的または半閉鎖的な空間で、野菜などの植物を 安定的に生産 するシステム/工場	農地や気候に左右されず安定的な栽培が可能 5,805億円('21) → 4.5兆円('30)
	細胞培養 肉など	動植物の食べられる部分の 細胞を抽出し、培養させる 技術。培養肉等がある	環境に優しく衛生的 3.5兆円('21) → 8兆円('28)
	陸上養殖 海上養殖	陸地のプラント で魚や海藻を育てる技術	作業負荷の軽減 生産性の向上 N/A (国内陸上養殖システム： 120億円('22) → 200億円('30))
消費対象の代替	植物性代替肉 動物性タンパク質	動物の肉を使わず、 植物などの別の素材で代替 したもの	環境負荷が小さく健康的 1兆円('22) → 2兆円('27)
	新食材(昆虫食等) 肉など	ミドリムシ、昆虫食など、これまで 広く食用とされてこなかったものの食材化 したもの	環境負荷が小さく栄養価が高い 昆虫食： 70億円('19) → 1,000億円('25)

植物工場のグローバル市場※2推移予測

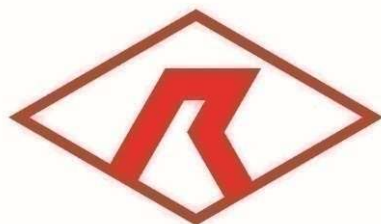
- 天候や農地の状態に左右されず安定的な作物栽培が可能な閉鎖型植物工場に対する期待が高まっている

(単位：億円)



※1：1ドル135円として円に換算 / ※2：市場規模は工場・コンテナ型両方の作物販売、ハードウェア機器(照明、センサー等)販売の総計

出所：植物工場の情報は、貴社ご提供の“植物工場産業の現状と外部環境変化による事業経営への影響”資料より引用
グローバル市場規模予測情報はそれぞれ以下より引用。細胞培養：グローバルインフォメーション“[プレスリリース\(2022年10月27日\)](#)” / 陸上養殖：みなと新聞“[記事\(2022年10月19日\)](#)” / 植物性代替肉：Jacom “[記事\(2022年8月23日\)](#)” / 昆虫食：日本能率協会総合研究所“[プレスリリース\(2020年12月21日\)](#)”



RYODEN

〒170-8448 東京都豊島区東池袋3-15-15

総務部 IRグループ

e-mail:ryoden_ir@mgw.ryoden.co.jp

TEL:03-5396-6112

FAX:03-5396-6448

資料の取り扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場（日本、アジア等）の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場的大幅な変動
- ・資本市場における相場的大幅な変動等